

オンライン MBA 入門<女性キャリア支援>授業シラバス 2019

1. 上司と同僚の思惑を理解する（組織行動）

担当教員 Lecturer

竹内 伸一 (Shinichi Takeuchi)

講義の概要 Course Overview

本プログラムの導入パートでもありますので、自由闊達な議論を立ち上げることにまい進します。難しい理論などは扱わずに、「育休復帰」という文脈で社会や職場、そして育休復帰者個人の現実を直視するための授業ばかりを、3本続けて行います。

私の授業の予習負荷は、今回の5人の講師の中でも小さめと思います。短いケースを毎回1～2つ読んでもらい、各自の考えを文章にまとめてもらうスタイルです。レポート文字数は毎回1,600字程度を求めます。

講義スケジュール Course Schedule

2019年9月25日 11:00～13:00

2019年10月2日 11:00～13:00

2019年10月9日 11:00～13:00

使用するケース Usage Cases

- 増員を渋る上司(A)
- 増員を渋る上司(B)
- こどもの病気と会議準備
- ある定時後のクレーム
- 人手不足に悩む松井店長

担当教員のプロフィール About the Lecturers

1988年早稲田大学教育学部卒業。マツダ株式会社を経て、2004年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了、2011年慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学、2015年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了博士(教育学)。

2004年ケースメソッド教育研究所代表、2006年株式会社ケースメソッド教育研究所代表取締役。2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科特別研究助手、同講師、特任准教授を経て、2016年徳島文理大学人間生活学部教授、2018年名古屋商科大学大学院マネジメント研究科教授。

マツダ株式会社では国内販売会社の経営管理を人材育成の側面から主導し、国内拡販プログラムとしてのMazda Sales Expansion、ならびに社内変革プログラムとしてのStrategic Initiativesに参画。当時の親会社フォードの主要ブランド6社との国内事業交流イニシアチブであるFord Exchange Programメンバーとして、米国ディアボーンでも活動した。

現在の専門領域はケースメソッド教育で、その探求のための学問バックグラウンドは教育哲学・教育方法学・専門職教育史・教育経営学・組織行動学・管理会計学と、教育学と経営学の両面からアプローチできる立場にある。ケースメソッド教育の組織導入実績および著書・論文・記事多数。

2. 資金の流れを理解する (ビジネスモデル)

担当教員 Lecturer

芳賀 裕子 (Yuko Haga)

講義スケジュール Course Schedule

2019年10月23日 11:00~13:00

テーマ：売上、費用、利益を理解する

この回は、事業の売上高、固定費、変動費について理解し、それらがビジネスの現場での様々な意思決定とどのように関係しているのかをケースを通して学びます。

2019年11月1日 11:00~13:00

テーマ：ビジネスモデルと利益

この回は、ビジネスモデルの違いによる利益の源泉、利益を拡大するための具体的な戦略についてケースを通して学びます。

2019年11月6日 11:00~13:00

テーマ：ビジネスモデルの変化

この回は、企業が外部環境の変化により、ビジネスモデルを変化させるということについて、ケースを通して自ら考え、学びます。

使用するケース Usage Cases

- TESSEI (テッセイ) の苦境
- イノベーションとリノベーション 革新と刷新 NESPRESSO 物語
- 愛車サブスクリプションサービス KINTO, TOYOTA の新たな挑戦

担当教員のプロフィール About the Lecturers

慶應義塾大学卒業。慶應義塾大学大学院経営管理研究科(慶應ビジネススクール)入学後、University of Western Ontario Business School, MBA Program(Ivy Business School)へ交換留学。M.B.A.(経営管理修士)。

筑波大学大学院ビジネス科学研究科後期博士課程修了。博士(経営学)。

プライスウォーターハウスコンサルタンツ(株)にて国内外大手企業の戦略コンサルティングに従事。海外企業の日本参入戦略プロジェクトに参加。その後コンサルティング事務所を立ち上げ、総合電機メーカー、産業機械メーカー、保険会社等大手上場企業のヘルスケア分野への新規参入コンサルティングを実施。上場企業の戦略的新事業参入を支援。医療、健康関連、介護、ヘルスケア業界を得意とする。ベンチャー企業取締役、ヘルスケア事業会社の執行役員などを歴任。その他コーポレートガバナンス 関連の分野で活動。協和キリン(株)社外取締役。

尚美学園大学総合政策学部客員教授(2010.4~2017.3)。2017年4月より名古屋商科大学ビジネススクール准教授。

<専門分野>

経営戦略、M&A戦略、ヘルスケアビジネス、コーポレートガバナンス

「競争優位性強化手段としてのM&A」(筑波大学 博士論文 2019.10)

「M&A投資が企業業績に及ぼす効果の研究」組織科学(査読付き) Vol52 No.1,2018

「M&Aの効果と多角化戦略との関係に関する文献サーベイ」Global Business Research Center 「赤門マネジメント・レビュー」15巻3号(査読付き), 2016

「障害者雇用における企業の人事評価システム運用のための一考察」(筑波大学 修士論文,1997.3)

「企業成長手段としてのM&A」(慶應義塾大学 修士論文,1989.3)

所属学会は、組織学会、日本経営学会、国際ビジネス研究学会、日本経営情報学会、Strategic Management Society,等。日本リハビリテーション連携科学学会常任理事。

3. 顧客を理解する（マーケティング）

担当教員 Lecturer

山岡 隆志 (Takashi Yamaoka)

講義の概要 Course Overview

マーケティングは、学術理論と実務経験のバランスが重要です。数多ある理論のなかから、講師の豊富な実務経験より導き出したビジネスで使える理論のみ扱い、マーケターが持つべき実践的なスキル習得を目指します。様々な角度から重要な基本的な概念を繰り返し学ぶことにより、マーケティングの本質が見えてきます。

講義スケジュール Course Schedule

2019年11月15日 11:00~13:00

テーマ：マーケティングの本質

顧客志向、事業定義、マーケティングの基本的な考え方について本質にせまる。

2019年11月22日 11:00~13:00

テーマ：マーケティング・リサーチ

マーケティング・リサーチが革新的な未来を生む

2019年11月29日 11:00~13:00

テーマ：製品開発と顧客経験

製品の定義と体験を創るマーケティングを知る

使用するケース Usage Cases

- コンパクト洗剤『アタック』
- コスモス薬品
- GoPro
- Nike+

担当教員のプロフィール About the Lecturers

実業では大手企業において、本社事業開発室長、関連企業の取締役兼 CMO(マーケティング最高責任者)を歴任、全社的な事業開発とマーケティング戦略、デジタルマーケティングを推進してきた経験をもつ。

経済産業省主催「デジタルコンテンツ EXPO」特別賞選考会委員、経済産業省主管『消費者インテリジェンス』研究会(2016)委員、日刊工業新聞主催「キャンパスベンチャーグランプリ」審査委員など歴任。Comexposium Japan、CMO Japan Summit、日本経済新聞、日経 BP、宣伝会議、Google、IBM、Salesforce、KDDI 主催のセミナーなどで講演多数。INSEAD で開催された Google CMO Academy にアジアの CMO45 名に選ばれ召喚される。

著書に『デジタルで変わるマーケティング基礎』(共著)宣伝会議。『顧客の信頼をかちとる 18 の法則 -アドボカシー・マーケティング-』(単著)日本経済新聞出版社。訳書に『アドボカシー・マーケティング』(単訳)英治出版。

マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院修士課程修了。

名古屋商科大学商学部教授、名古屋商科大学大学院マネジメント研究科教授

名古屋商科大学 2018 年アウトスタンディング・ティーチング・アワード受賞。

名古屋商科大学大学院 2017 年ティーチング・アワード受賞。

名古屋商科大学 2016 年アウトスタンディング・ティーチング・アワード受賞。

学部と大学院両方からティーチング・アワードを受賞したのは過去 10 年間の記録では初。

名古屋商科大学大学院 Case Development 委員会委員長、AOL 委員会委員長。

所属学会は、日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本広告学会、日本マーケティング学会、日本マーケティングサイエンス学会、経営行動科学学会、組織学会など。

<主な研究分野>

顧客マネジメント、顧客志向、サービス・マーケティング、マーケティング戦略

科研費 2018 年 3 月代表者として基盤 C 採択、2018 年 3 月共同研究者として基盤 B 採択

科研費 2015 年 3 月代表者として基盤 C 採択

吉田秀雄記念事業財団助成研究助成 2015 年 3 月採択

4. 会社の存在意義を考える（経営戦略）

担当教員 Lecturer

加藤 和彦 (Kazuhiko Kato)

講義スケジュール Course Schedule

2019年12月12日 11:00~13:00

テーマ：思考の戦略：「デザイン思考」信仰を問う

概要：まずは戦略のための『思考法』から入ります。最近注目されている「デザイン思考」は、これまでプロジェクトを管理するPDCA手法と対比して優れている点は何なのか？ほんとうにデザイン思考でなければ、これからの時代は通用しないのか？イメージが先行する「デザイン思考信仰」をケースを通じて議論します。

2019年12月19日 11:00~13:00

テーマ：製品・サービスの戦略：セールスフォースドットコム（SFDC）

概要：製品とサービスの戦略として、ソフトウェアをクラウド上に置いてサービスとして展開するプラットフォーム・ビジネスで成功を収めてきたSFDCを取り上げます。プラットフォームを拡大するにあたって、来りくるIoT時代の事業戦略の要点を議論します。

2019年12月26日 11:00~13:00

テーマ：人材の戦略：新幹線7分間の奇跡

概要：他のセッションでも取り上げられたTESSEIのケースの発展版を「人材とモチベーション」の観点で議論します。組織を動かすマネジメント能力は、ある程度訓練で身につけることができます。このケースを通じて、働くモチベーションや日本人のおもてなし文化、社会的通念についてマネジメントの側面で考える機会をもってもらいます。

使用するケース Usage Cases

- 「デザイン思考」信仰を問う
- セールスフォース・ドットコム2018（要約版）
- 言語とグローバル化：楽天の「英語化」(A)

担当教員のプロフィール About the Lecturers

早稲田大学大学院博士後期課程修了 博士（商学）早稲田大学

通信の自由化によって誕生したベンチャー企業の DDI(現在の KDDI)にて、新設事務所開設や国内営業企画等に従事の後、豪州現地法人のシニア・マネージャーを務め、その間、豪 BOND 大学で MBA、豪シドニー大学で MA in International Studies を修了。帰国後、米国シリコンバレーIT 企業であるサン・マイクロシステムズの競合戦略室（WarRoom）の日本担当責任者としてサーバーの競合戦略、シスコシステムズで IP ベースの新規ソリューションの日本市場普及等、世界的 IT 企業の日本法人での役職を歴任。中京地区の医工連携・産学官連携のコーディネイトに従事した後、2016 年より現職。

IT 企業のプラットフォーム競争戦略や産学官連携のベンチャー育成に関する講演・論文等多数。著書に「IoT 時代のプラットフォーム競争戦略（中央経済社）」また研究成果の実務分野へのフィードバックとして東海地区の企業に新規事業のビジネスモデル構築や事業化支援を通じ助言をおこなっている。

5. 職場への復帰を展望する（復職準備）

担当教員 Lecturer

国保 祥子 (Akiko Kokubo)

講義スケジュール Course Schedule

2020年1月14日 11:00~13:00

テーマ：企業で働く女性を取り巻く状況

2020年1月21日 11:00~13:00

テーマ：女性活躍推進の歴史と女性の人材育成

2020年1月28日 11:00~13:00

テーマ：職場の多様性と戦略・制度・管理

使用するケース Usage Cases

- 森下あおいの職場復帰前面談
- 資生堂インパクト 子育てを聖域にしない経営
- 株式会社クラシコム -全員18時退社で160%成長を続けるベンチャー企業-

担当教員のプロフィール About the Lecturers

博士(経営学・慶應義塾大学・2011年)。静岡県立大学経営情報学部准授、株式会社ワークシフト研究所所長、育休プチMBA代表。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師、早稲田大学WBS研究センター招聘研究員。厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員(2017,2018年)育休プチMBA勉強会を立上げ、2015年組織開発プログラム等を手掛ける(株)ワークシフト研究所(大学発ベンチャー4号認定)を共同設立。著書の『働く女子のキャリア格差』(ちくま新書,2018年)は日経新聞の書評で5つ星と評価される。他にも『人材開発研究大全 第22章女性 管理職の育成』(東京大学出版会、2017年)、共著でA cultural perspective on gender inequity in STEM: The Japanese context.(Industrial and Organizational Psychology,2018)等、様々な角度で経営現場における女性を研究している。

大学卒業後は民間企業でのコンサルティング経験を経て、2003年に慶應ビジネススクールに入学。博士課程在籍中の2007年から、ケースメソッド教育を用いた企業の経営人材やリーダー育成を手掛けるようになり、Learning Communityを使った意識変革や行動変容を得意分野とする。2010年に静岡県立大学に赴任して社会人経験のない学生を対象とした経営教育に携わるようになり、教育現場と地域社会の断絶に対する問題意識から2011年に学生によるフューチャーセンターを立ち上げる。2014年に娘を出産し、復職後は仕事時間が7割になるという事実キャリアを諦めかけるが、育休中に知り合ったママ友に、「第1子出産後に残業ができなくなったら営業成績がよくなり、成果が出たら仕事が楽しくなったので育休中に勉強したいと考えている」と相談されたことで、「労働時間と業績は比例する」という自分の無意識バイアスに気づく。またそれまでは「女性は昇進意欲や経営学習意欲が低い」という人事部の声を聞いていたため、女性が育休中に学習意欲を持つという現象に関心を抱き、社会実験として2014年7月にゼロ歳児を同伴できる勉強会「育休プチMBA®」をマンションの1室で立ち上げる。管理職育成経験に基づいた、育休者向けの経営教育コンテンツを開発すると同時に、育児をしながら働く女性が抱える職場の課題を研究し始める。この勉強会は、現在は株式会社ワークシフトがCSRとして監修しているが、NHKや日経DUALなどに取り上げられ、参加チケットは即日完売、参加者はのべ6,000人(育休プチMBA、WSIプチMBA合算値)、参加者限定コミュニティは1,000人、fbページフォロワーは1万人となっている。2017年からは育休中の女性の意識変化を調査する共同研究プロジェクト「育休トランジション研究」を日中英の研究者とともに推進中。

【専門分野】 組織行動論、経営組織論、社会起業論、ベンチャービジネス論、人材育成

【研究分野】 人が育つ組織のマネジメント、育休トランジション、企業で働く女性の意識変化

【所属学会】 組織学会、経営行動科学学会